（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271402309		
法人名	医療法人NANOグループ		
事業所名	グループホーム菜の花Ⅰ（1階・2階）		
所在地	長崎県南島原市南有馬町乙376		
自己評価作成日	平成26年2月25日	評価結果確定日	平成26年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4271402309-00&PrefCd=42&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社　医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	平成26年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体が医療機関であるGH菜の花Ⅰは、平成13年に開設、その後平成16年に開設したGHⅢと合併し、平成17年に現在の場所で2ユニットのホームとして始まった。母体クリニックの院長が地域の独居老人の増加や入院患者の退院後の生活場所の必要性を感じホームは開設された。クリニックは近距離に位置し、ホームにいながらにして24時間の持続点滴、バルーンカテーテル（膀胱留置カテーテル）、酸素療法などの医療処置が可能であり医師や看護師との密な連携体制が整い、それが入居者や家族の安心に繋がっている。学びの場が多いことも特徴であり法人内で介護に関する知識だけでなく院長より職員教育の機会が豊富に提供されレベルアップを望める。

経営母体が近隣にあるｸﾘﾆｯｸであり、医師や看護師との親密な連携が取れており、夜間帯もクリニックに病棟があるため看護師が常駐しているので緊急時には必ず看護師と連絡が取れる体制である。事業所内は広く、畳のスペースもありゆっくりくつろぐことの出来る場所が食堂に完備されている。地域との交流も積極的に行い、防災対策に関しても様々な状況を想定し対処方法を考えたり、訓練している。職員は様々な研修に参加し、その参加したものが勉強会で発表したり、職員で構成される様々な委員会(医療安全管理・感染対策・褥瘡対策・禁煙対策・医療管理・医療機器安全管理・防災対策)を法人内で設立するなど、職員のスキルアップが考えられており、地域からも職員からも必要とされている事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時より同じ理念をあげ、フロアに掲示し共有している（一人一人の意志及び人格を尊重し自由に安全に生活できる）	食堂や玄関など目に付くところに理念を掲げてあり、重要事項説明書にも記載して職員や利用者や家族の方にも理念を共有するようにしている。又職員は理念の実現に向かって意識付けを行うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	原城マラソン大会、商工会行事、地域清掃活動などに参加し交流している	地域の祭りに参加したり、事業所で8月にバーベキューを開催し地域の方にも参加してもらったり、近所の保育園が踊りを披露してもらうなど親密な関係を築いている。又地域の中学生の福祉体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行い認知症の方の理解や支援方法を地域の方に理解して頂く　又職場体験学習も受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状態報告とその都度議題をあげ出席者に意見を頂きサービス向上に繋げている	利用者の現状や職員の活動を報告し、毎回議題を作って参加者に相談や意見を聞くなどしておりｻｰﾋﾞｽの向上に繋げている。又参加者の中より質問があれば出来るだけ早く答えるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人内事業所の職員が前年まで南島原市GH連絡協議会会長をされていた為かかわりが深い	南島原市グループホーム連絡協議会に加入し積極的に、行政との連絡・連携を密にとっている。又利用者の中には生活保護の方もおり保護課との連携も取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は利用者の危険性がある場合のみ家族の同意を得て行っている　危険性がなければ身体拘束を解除していく方法をとっている	現在3名の拘束を行っているが、自虐や危険行為がひどいため、家族に説明し同意書も書いてもらっている。事業所では月に1度経過記録をとり、日々の申し送りなどで拘束ゼロを目指している。実際に時間をかけ拘束をなくしている実績がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修等に参加したり職員カンファレンスにて考える機会を持ち入浴時、身体的虐待がないか観察を行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修等に参加し利用されている利用者もいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、利用契約書等の説明を行い、利用者・家族に理解納得頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、面会時、利用料金支払い時に意見、要望を聞き、苦情があった場合は全職員で共有し会議を行っている	意見箱や家族が来所された際に積極的に話し、家族からの意見の収集を行っている。利用者からも日々の会話の中より意見を引き出すようにしている。意見などがあれば会議で話し、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員カンファレンスにて職員の意見を出してマネジメント会議にあげている	日々の申し送りなどを利用して意見の収集を行いカンファレンス会議にて意見を出し、出来ることはすぐに実行し、できないことは議題をマネジメント会議にて話会うようにして職員意見の反映を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績・資格によって給与に反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南島原市GH連絡協議会、島原半島GH連絡協議会で研修、ホーム長会等に参加し交流を深めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時と定期的に本人に要望を尋ね実践できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時と定期的に意向を確認し関係づくりを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師の往診や訪問看護指導を利用してもらっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブル拭き、洗濯物など出来ることを手伝って頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が少ない方がいるので精神面のケアの為、面会を増やしてもらうことが必要		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の受け入れは常に行い、馴染みの人に自由に来て頂けるよう支援に努めている	面接で来所された際は居室にてゆっくりと話してもらえるように配慮し、ドライブの際に馴染みの場所へ通ったり、行きつけの床屋やお菓子屋に来所してもらったり、友人や親戚に年賀状を出すなど継続支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席は利用者同士の関係をみて変えている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には対応させて頂いている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時と定期的に意向の確認を行っているアセスメント表・ケアプランに記載	年に1度アセスメントを行い(初回は6ヶ月)、本人、家族の意見や思いを聞き取り、職員全員で会議を行いｹｱﾌﾟﾗﾝを作成している。ｹｱﾌﾟﾗﾝの内容は家族の訪問時や郵送し、お知らせしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、生活暦・暮らし方・生活環境を聴き、記録し全職員把握できるよう努めている基本情報に記載		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表に記載		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて意見を出し合いケアプランを作成している	6カ月おきにモニタリング、職員会議を行っており、議事録もきちんと整えている。日ごろから職員が連携し、緊急時や必要時はその都度話し合い、現状に即した介護計画の作成が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌にその日のケア、気づきを記入し職員間で情報共有化している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態によってケアプランの見直しを行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等に園児を招き楽しんで頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医療機関、他の医療機関を受診したり往診を受けられるよう支援している	利用者の方は元々、現施設のかかりつけ医の方が多く、施設内に定期的に往診が行われている。他に歯科や眼科などは馴染みの病院に受診をしている。近くであれば施設の職員が通院等対応して支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の医療機関の看護師や訪問看護指導時、相談し支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、お見舞いに行き医療機関より利用者の状態や退院後のケアの仕方を聴き情報交換できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	菜の花クリニックDr.Nsと事前に話し合い、本人・家族へも説明を行っている	看取りを今まで4人行ってきた実績がある。医師が主に入所時もしくは状況に応じ、家族に説明が行われ同意書を作成している。説明した内容は記録もとり職員も情報共有して、クリニックの看護師なども連携して支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署に来て頂き心肺蘇生・対応の訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い災害時用のストック（食料品・水）もしている	年2回消防局との共同で避難訓練が行われている。災害の状況にあわせて、避難場所の確認や利用者の基本情報を一冊のフアイルにまとめ避難時に持参できるよう整えている。水や米、缶詰など非常食も整えている。	非常用の食料は（水・米・缶詰)は整えているが、防寒用の毛布などが整備されていない。整備することで更なるステップアップを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに居室があり、プライバシーの確保を行っている	個人の人格を尊重し、その人に応じた声かけ、対応に努めている。職員の接遇の研修も定期的に行われている。排泄時も人の目に触れぬよう扉を閉めたり、カーテン等仕切りをする等工夫し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る方は本人に確認し、出来ない方は家族に確認している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし希望にそった支援を心掛けしているが、安全第一を考え職員側の都合で生活して頂くこともある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に来てもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な魚は食べれる魚に変えたり食事が楽しめるよう支援を行っている　食事の準備・片付けは殆ど職員が行っている	個人の嗜好やきざみやトロミなど形態をかえ食事を工夫している。自分の好みの梅干や漬物なども持込が出来る。季節の食材を活かした献立や誕生会もケーキをしたり、食事を楽しむことの出来る環境を整えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェックシートを記入し一日の摂取量の確認、水分制限・糖尿病等、一人ひとりの状態に応じた支援をしている　又、献立は管理栄養士が立てている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に合った口腔ケアを行っている　　イソジン・液体歯磨き・アイスマッサージ棒・ガーゼなどを使用している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ウロシートを記入し利用者の排泄パターン・オムツ交換・トイレ誘導を確認している	自力でいけない利用者の方が多いが、こまめにトイレに誘導し排泄の支援を行っている。ウロシートに職員が全員で記入し情報を共有している。オムツの経済的負担が軽減する支援にもつながり意識付けが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い3日目、4日目でクリニックへ報告し指示を受けている　働きかけとして牛乳・水分補給・腹部マッサージ等行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決め、それにそった支援を行っているが時間帯は職員の都合になっている	時間はその人の入りたい時間を基本にしているが夜間帯などは体制的に支援が難しい状態ではある。個人の好みでシャンプーやボディソープがあり、2人体制で安全に入浴が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を決め昼夜逆転のないように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者別に薬の一覧表を作成し薬の目的や副作用を確認し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり干したり利用者のできる範囲で手伝って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あまり外出できていないが外出時には理事長の許可後外出している	感染症が発生する時期は医師の判断で制限している。家族や知人との外出は、事前に届出をだし情報を共有しながら行っている。近所を散歩したり、個人の意思確認しながら外出し、ドライブコースには馴染みの場所を組み込む等工夫している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得てホームにて管理している又自分で管理できる利用者は現金を持たれている、主に買い物は代行している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や銀行や商店に電話をかけられている自らできない方は介助している　手紙の支援は行ったことがない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり展示物を飾ったりしている（ひな人形・クリスマス・五月こいのぼり等）	廊下や壁面の環境を整える係りがおり、行事や季節に合わせて、優しい彩で飾り付けをしたり、玄関には桜の生花がある。季節の花を生け利用者の方に香りも楽しめるよう心掛けている。窓が広く、自然な日差しをとりいれ、空調も適当な温度になるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は居室にてテレビを観たり食堂で気の合った利用者同士で話をしたり廊下に長椅子を置いて過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のクッション・毛布等持参してもらい、使用して頂いている　写真の持ち込みがあれば飾っている	自宅で利用していたタンスや鏡台や布団等を持ち込んでいる。各部屋には、手作りの物を貼ったり、家族の写真や思い出の物を飾っている。各部屋のや空調にも気を配り、加湿器など必要に応じて利用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各箇所に手すりを設置、又居室を間違えないように張り紙をし安全に生活できるよう工夫している		